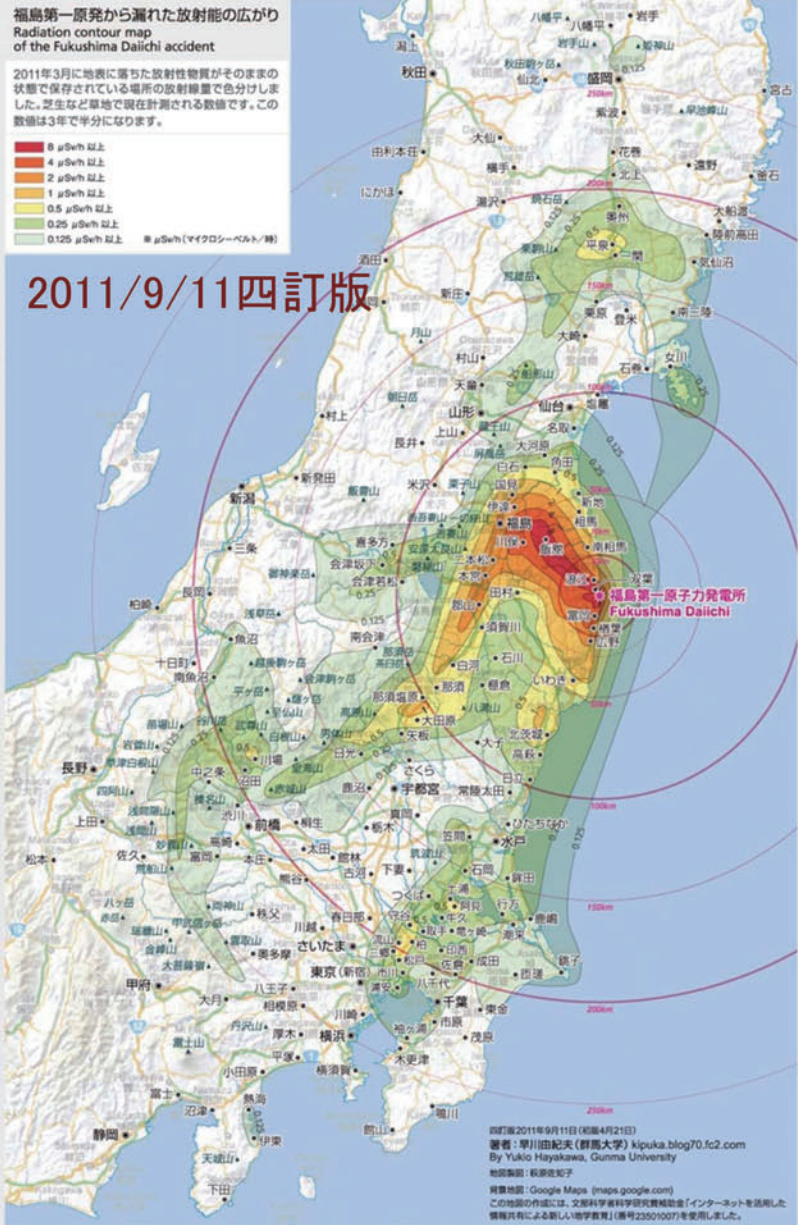


福島第一原発から漏れた放射能の広がり
Radiation contour map
of the Fukushima Daiichi accident

2011年3月に地表に落ちた放射性物質がそのままでの状態で保存されている場所の放射線量を色分けしました。発生など草地で現在計測される数値です。この数値は3年で半分になります。

- 8 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
 - 4 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
 - 2 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
 - 1 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
 - 0.5 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
 - 0.25 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
 - 0.125 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
- $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト/時)

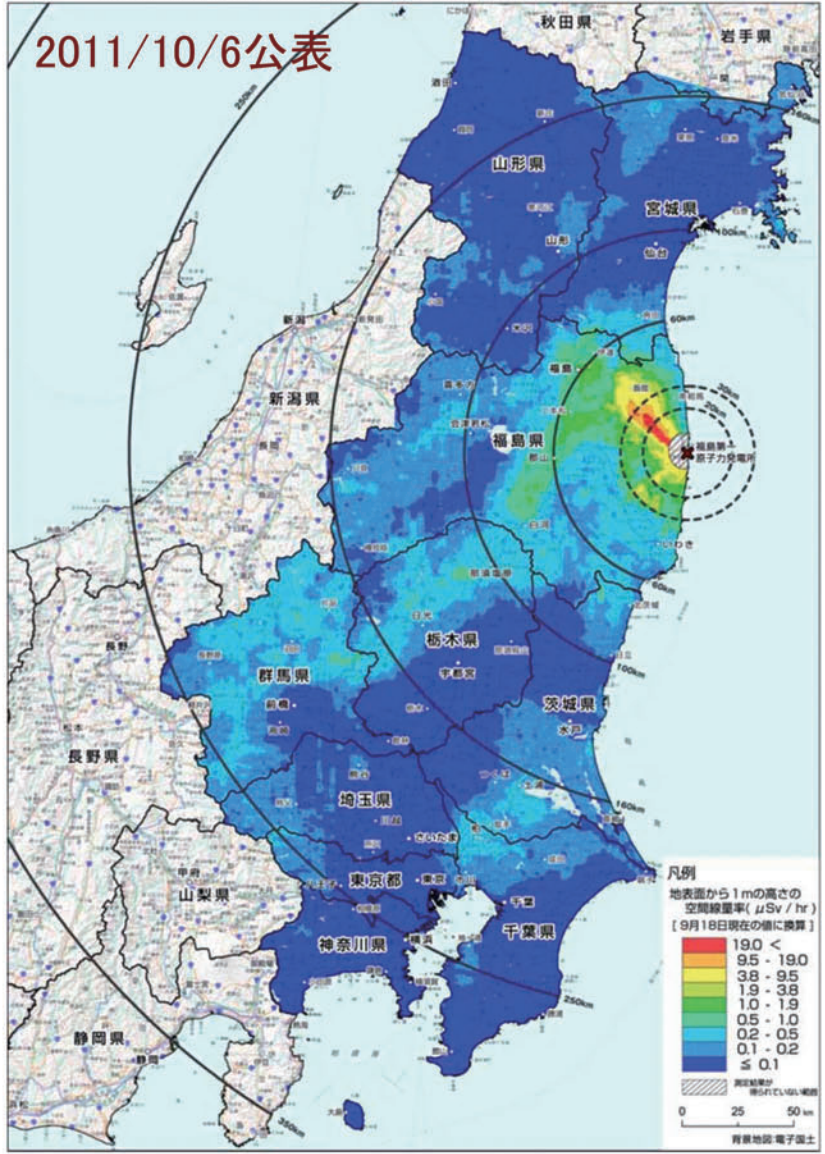
2011/9/11四訂版



四訂版2011年9月11日(初版4月21日)
著者:早川由紀夫(群馬大学) kikipuka.blog70.fc2.com
By Yukio Hayakawa, Gunma University
地図編纂: 転写後知子
資料提供: Google Maps (maps.google.com)
この地図の作成には、文部科学省科学研究費補助金「インターネットを活用した情報共有による新しい物理学教育」(番号23501007)を使用しました。

文部科学省による東京都及び神奈川県、航空機モニタリングの測定結果
について(文部科学省がこれまでに測定してきた範囲及び東京都
及び神奈川県内における地表面から1m高さの空間線量率)

2011/10/6公表



- 凡例
地表面から1mの高さの
空間線量率($\mu\text{Sv/hr}$)
[9月18日現在の値に換算]
- 190 <
 - 95 - 190
 - 38 - 95
 - 1.9 - 38
 - 1.0 - 1.9
 - 0.5 - 1.0
 - 0.2 - 0.5
 - 0.1 - 0.2
 - ≤ 0.1
- 測定結果が
得られていない地域
- 0 25 50 km
背景地図: 電子国土

「超専門力」発揮例の一つ。早川由紀夫氏による汚染マップ(左)は、文部科学省によるマップ(右)に先駆けて汚染状況の広がりを可視化。自治体や市民レベルでの詳細なホットスポット調査をうながし、その後も更新が続いている。